

一日研 報告

- 1 期 日 9月13日
- 2 場 所 総社東公民館
- 3 参加者 AK, AS, O, CH, YO, AR
- 4 内 容

佐藤忠男「事実在即して物を考えさせるということ」(O)

映像「南中ソーラン」「前回り」(AS)

解釈「海の命」(YO)

戸田実践「ぼくのいぬころ」(CH)

解釈「注文の多い料理店」(AK, AR)

斎藤喜博全集月報での佐藤忠男氏の文章は、短いながらも私達が目指しているものを子ども達にとってのゴールも含めて、みごとに表しています。「主体的」とはどういうことか、「主体的」であるためには何が必要で、どのような学習が必要なのか、実の的を得た文章です。自分自身はこれを一つの指針として、定期的に読んで振り返りたいと感じました。また、私達も、事実在即して授業研究・教材解釈をできるように、検証していくことを心がけていきたいです。

戸田実践では、教師が最大限の共感を示しながら子ども達のイメージを聞き出していることが印象に残りました。自動的な読みでのイメージの違いから問題をつくり、それを論理的に解決し、そこからまたイメージをする。イメージをできるようにすることがスタートでありゴールでもある。ならば、そのために何が必要なのか。「共感」は大きな要素の一つであると感じました。口にしないけど内に秘めているイメージを出せるようにするために。(AR)